

歯科医師臨床研修推進検討会

平成19年10月2日

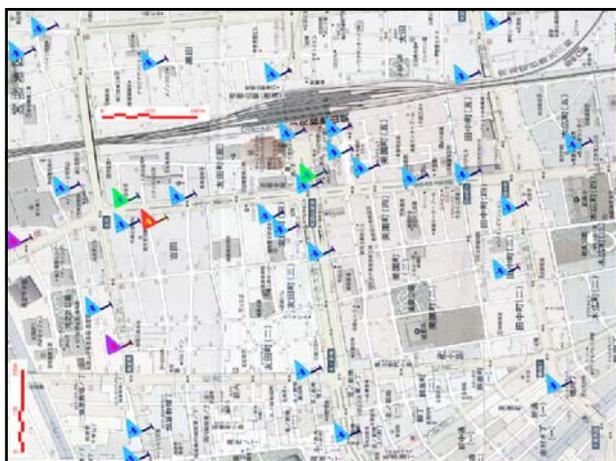
日本大学松戸歯学部付属病院
協力型臨床研修施設
(医)金尾好章歯科医院(和歌山市)

研修環境の概要

- 所在地:和歌山市吉田537
- 典型的な地方都市・県庁所在地・JR和歌山駅へ徒歩5分
- 県内に歯科大学は無く、県立医科大学を軸に医科・歯科ともに小規模医療機関が多い
- 小児歯科、歯列矯正歯科、歯科一般を標榜
- 歯科用ユニットチェア15台、デジタルパノラマ・セファロ、歯科用高出力レーザー等、最新機器を導入。
- 新患初診患者数1400名/年間、平均来院患者数140名/日、平均レセプト枚数1700件/月

医院の診療方針コンセプト

- より低年齢からの口腔の成長発育に関わる診療体制
- 患者さんからファミリーデンティストと言われる医院を目指す
- 予防を中心とした患者サイドにたった診療
- スタッフとともに最新の技術や知識を学び、働きがいのある職場の提供を...





医院3階へ「ドリルフリーゾーン」
予防歯科健診室を設置

新人歯科医師・歯科衛生士を中心とした
予防歯科診療の実践場所
ベテラン衛生士がマネージメントを行う





管理型施設と協力型施設の連携

- 日本大学松戸歯学部付属病院との連携による協力型施設
- 研修医指導指針は毎年度発行の付属病院歯科医師臨床研修プログラムを基本に実施
- 指導医は2週間毎に付属病院へ研修医の研修評価表の提出を行なう

研修施設としての指導体制 (主にスタッフの概要)

- 歯科医師、常勤5名、非常勤4名
臨床研修指導医1名、プログラム責任者1名
- 日本小児歯科学会専門医1名
日本矯正歯科学会認定医1名
- 非常勤講師1名(小児・矯正歯科専門)、
非常勤歯科衛生士フリーランス1名
- 他の勤務スタッフ・歯科衛生士 11名、歯科技工士 4名、受付事務5名、歯科助手5名
2007.8末現在

研修内容・研修方法

- 客観的なデータの収集と評価による根拠に基づいた予防や治療計画への実施参加
- カリオロジー、ペリオドントロジー等病因論に基づいたリスクコントロールの実践
- チーム医療(グループ診療)の実践
- 患者利益になる歯科医療の見学と実践
- 歯科医だけでなく、スタッフにとってもやりがいのある付加価値の高い仕事の提供

卒後間もない臨床研修医へ、 特に力を入れている点 ①

卒後間もない研修医はとかく手技を中心とした技術的評価を高めようとする傾向が強いが、主な歯科的疾患である、カリエスや歯周病の発症メカニズムを念頭においた、的確な診断力を身につけることが大切と思われる。

疾患を**発症前にコントロール**できる歯科医が、高度な手技を持つ歯科医以上に評価されることを理解する必要がある。

卒後間もない臨床研修医へ、 特に力を入れている点 ②

患者さんから信頼される人間性豊かな医療人になるためには、一般臨床歯科医としての基本的な知識や技能を高めるのはもちろん、歯科医師としての診療方針や医院の**診療コンセプトを明確**にすることを理解する。

しかも、その内容を

誰にでも解りやすく表現できる

能力を真っ先に身に付けることが必要。

卒後間もない臨床研修医へ、特に力を入れている点（将来的概論） ③

- 21世紀の歯科医師は世界中の最新の専門的知識・技術をインターネットを通じて得ることができる。
- 最新の専門知識や高度な技術を全ての患者さんにあてはめるのではなく、個々の患者さんの病態や抵抗力、疾患に対するリスクに個体差があることへの客観的な認識が必要である。
- 患者さんからはより木目の細かい対応が常に求められ、患者自身のデータやカルテの共有が常識となつつある。

メンタルヘルスへの対応 ①

- 定期的(1月毎)院内研修会への研修医の参加、院内行事への積極的な参加を促す
- 院外活動、特に地域における医療ボランティア活動への積極的な参加(保育所での母親教室・小学生へのタバコの害についての出前授業等、月に一度程度の院外活動あり)
- 院内同僚の参加セミナー、グループワークへの参加
- 他医院へ派遣見学、予防、矯正専門医、口腔外科(インプラント手術等)の見学

メンタルヘルスへの対応 ②

- 定例院内スタッフミーティング、院外講演会・セミナー終了後の講師を交えての懇親会等への参加
- ゴルフ、ボーリング等の院内レクリエーション大会、忘年会、院内旅行への積極的な参加
- 同大学先輩の指導、昨年度研修医の歯科医が現在勤務中、直接的に後輩研修医の指導が可能
- 当施設が特に大学付属病院と遠距離のため定期的な同窓との交流を心がけている

評価方法

- 日本大学松戸歯学部付属病院研修要項に従う
- 研修評価項目達成度のチェックと研修医評価表の定期的な提出
- 定期研修管理委員会への出席と報告

研修歯科医の勤務環境

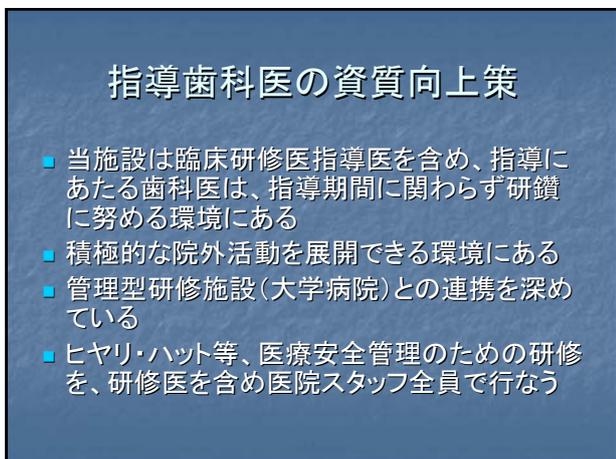
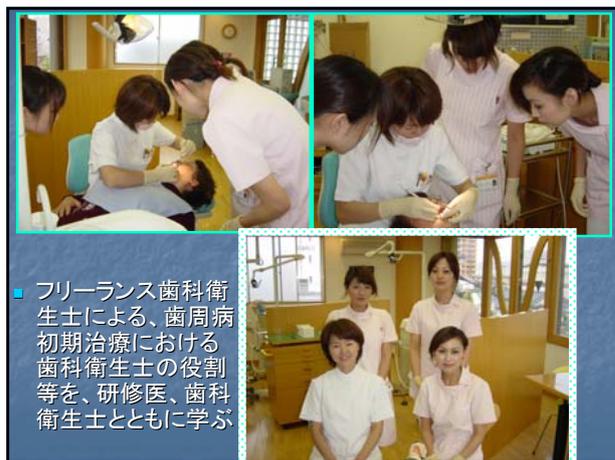
(主に遠隔地研修施設として)

- 研修期間中は研修医の宿泊施設を研修施設(医院)が設ける
- 所定の研修時間外の勤務は時間外勤務手当として支給する
- 医院が指定した講習会、セミナーへの参加費用、交通費等は医院が負担する
- 院内研修会、院内行事への参加費用は医院が負担する
- 社会保険・労働保険、医療安全、医師賠償責任保険等、他の処遇は管理型施設の指導・実施による

歯科矯正指導医 京面洞吾先生、宝塚市にて矯正専門医にて開業10年目の専門医による実地指導



フリーランス 長谷ますみ先生
歯科衛生士研修会「みんなの会」を結成、クリニカルハイジニスト育成セミナーを企画、実践中



その他（主に当施設で研修医教育に使用するスライド）

- 患者情報の院内一元化管理とマネージメントの大切さをともに学ぶ
- 地域へ出向き、歯科医療ボランティア活動の実践を学ぶ
- 医療事故、危機管理に対する薬物機器類の操作方法等の実習（医療機器メーカーの協力による）
- 歯科医の社会的価値、歯科診療を通じて仕事の価値を楽しめる環境作りを心がける

歯科を楽しめる環境づくり

- 歯科医師になれば将来はばら色だ・・・
- 患者さんに喜んでもらえる喜び・・・
- スタッフに喜んでもらえる喜び・・・
- 家族や友人に喜んでもらえる喜び・・・
- 自分の仕事が収入に結びつく喜び・・・

必ず よい結果が生まれる ことを、日々の地道な努力が無駄にならないことを信じる。

地域医療における 歯科医としての価値の認識

- まだまだ将来有望な明るい歯科診療環境。
- 学生生活とはまったく違う生活、歯科医師として、リセット、再スタートができる。
- 患者さんとのコミュニケーション（インフォームド・・・）も楽しい。
- 自分の置かれた立場や歯科医療環境をなげかず、自分に出来ることから歯科医師としてスタートしよう。

研修医の皆さん 歯科をもっと大好きになろう

歯科をライフワークとして取り組むなら、「好きな仕事」と、「いやな仕事」との差は一生通じて計り知れない価値の差が出来るでしょう

常に自分の中で 「歯科医の 未来形」 を追い求める

実践できていることの上に理想と考えている形を、これからの夢として・・・自分にとっての歯科医の**未来形**を探る

グループ診療の勧め （チーム診療）

患者さん、スタッフと共に楽しみも、苦しみも共有できるような診療所が構築できれば・・・これからの厳しい時代も怖くない、理想かな・・・？

Hospital ⇒ 病院

(Hospitality)

手厚いおもてなし

医療の基本的な精神を
養える環境作り

歯科医師臨床研修推進検討会 意見書

平成19年10月2日

日本大学松戸歯学部付属病院協力型臨床研修施設

(医) 金尾好章歯科医院 (和歌山市)

臨床研修指導医 金尾好章

はじめに、

歯科医師臨床研修制度も完全実施と義務化され、私ども協力施設側も改めて身の引き締まる思いで日々研修医の現場指導にあたっているのが実状です。

今回光栄にも、より将来的な臨床研修制度への改変に向けた推進検討会へ意見を述べさせていただける機会を頂戴し、責任の重さを痛感している所存でございます。

さて、歯科医師を目指す学生は6年間にわたる長い教育期間と卒業前5～6年次には診療参加型臨床実習を伴う研鑽を長時間義務付けられているのは承知の事実であります。

近年、卒業時の歯科医師国家試験を試される前に4年次においてコンピュータを活用した CBT 試験と客観的臨床能力を問われる OSCE 試験等で、さらに高いハードルを超えた専門知識や高度な技術を身につけた卒業生がでてくるものと思われま

す。これまでの生化学、薬理学、保存学、補綴学等の項目に加えられる臨床専門分野からさらに「医の原則」、「歯科医師としての基本的な態度」、「社会と歯学」、「生命科学」という歯学生が身につけておくべき普遍的な医学的知識が追加要求されることから、歯学教育も既に新しい時代に向けた制度に変わり、着々と実績を積み重ねている姿が、大学から遠く離れた街で開業する一臨床家としても、この大きな変化を認識せずにはられません。

当施設における臨床研修医に対し特に力点を置いている事項(スライド)の若干の補足説明を行ないます。

卒後間もない臨床研修医へ、特に力を入れている点 ①

おそらく歯科医がこの世に生まれてから職業的能力として手先の器用さや短時間に仕事を要領よく身につける能力を常に問われてきたような気がします。

特に卒後間もない研修医はとかく手技を中心とした技術的評価を自ら高めようとする努力する傾向が強いことは決して間違いではないが、主な歯科的疾患である、カリエスや歯周病の発症メカニズムを念頭においた、先ず的確な診断力を身につけ、治療方針や術後の長期的な経過を予測する能力を高めることこそ大切と思われる。

これからの国民、患者さんが真に求める歯科医療の原点は、その疾患を発症前にコントロールできる歯科医が、高度な手技を持つ歯科医以上に評価されることを理解する必要があるだろう。

卒後間もない臨床研修医へ、特に力を入れている点 ②

患者さんから信頼される人間性豊かな医療人になるためには、一般臨床歯科医としての基本的な知識や技能を高めるのはもちろん、歯科医師としての診療方針や医院の診療コンセプトを明確にすることを理解する。

しかも、その内容を 誰にでも解りやすく表現できる 能力を真っ先に身に付けることが必要です。

卒後間もない臨床研修医へ、特に力を入れている点（将来的概論） ③

- 21世紀の歯科医師は世界中の最新の専門的知識・技術をインターネットを通じて得ることができる。
- 最新の専門知識や高度な技術を全ての患者さんにあてはめるのではなく、個々の患者さんの病態や抵抗力、疾患に対するリスクに個体差があることへの客観的な認識が必要である。
- 患者さんからはよりきめ細かい対応が常に求められ、患者自身のデータやカルテの共有が常識となりつつある。

その他（主に当施設で研修医教育に使用するスライド）

- 患者情報の院内一元化管理とマネージメントの大切さをともに学ぶ
- 地域へ出向き、歯科医療ボランティア活動の実践を学ぶ
- 医療事故、危機管理に対する薬物機器類の操作方法等の実習（医療機器メーカーの協力による）
- 歯科医の社会的価値、歯科診療を通じて仕事の価値を楽しめる環境作りを心がける

歯科を楽しめる環境づくり

- 歯科医師になれば将来はばら色だ・・・
- 患者さんに喜んでもらえる喜び・・・
- スタッフに喜んでもらえる喜び・・・
- 家族や友人に喜んでもらえる喜び・・・
- 自分の仕事が収入に結びつく喜び・・・

歯科医師という職業が資格を手にしただけでは素晴らしい職業には成りえず、その後の歯科医師人生はその方そのものの努力、とりわけ高度な専門的技術や知識への研鑽は、その個人の努力の結果であると思われまます。

しかし、まだ駆け出しの新人歯科医師である研修医がこの職業に対しての将来的な不安をこの時期に払拭しておく、自らの能力を高めることで素晴らしい職業につけた喜び

を感じながら夢を膨らませてゆける職業であって欲しいと思います。

研修期間のこの一年は、自分の将来は必ずよい結果が生まれることを、日々の地道な努力が無駄にならないことを信じられる環境、研修施設を提供することも大事と考えます。

地域医療における歯科医としての価値の認識

- まだまだ将来有望な明るい歯科診療環境。
- 学生生活とはまったく違う生活、歯科医師として、再リセット、再スタートができる。
- 患者さんとのコミュニケーション（インフォームド・・・）も楽しい。
- 自分の置かれた立場や歯科医療環境をなげかず、自分に出来ることから歯科医師としてスタートしよう。

医科、歯科を問わず地域医療の末端である一開業医としての医療現場や、大学の歯科教育現場においても、誠に残念ながらこの仕事の将来を嘆く風潮は極一部の方々だけではなく蔓延しているといっても過言ではないと思われます。

しかし、すべての事柄が研究され尽くされ、歯科的な疾患そのものが根本的な解決策が既に実施されつくされたわけでもありません。

反対に医科・歯科連携による新しいジャンルの開拓や、専門大学での高度な研究成果の結果、より歯科医療の守備範囲が広がり、今後益々、国民から高度な歯科医療の提供を叫ばれ、この歯科の仕事の価値をより高度に認知されることも十分に考えられる職業と認識すべきと思われます。

特に、若い研修医には将来的な魅力ある仕事につき、価値ある仕事への関わりを誇りに思いながらの研修期間であって欲しいと願います。

研修医の皆さん歯科をもっと大好きになろう

歯科をライフワークとして取り組むなら、「好きな仕事」と、「いやな仕事」との差は一生通じて計り知れない価値の差が出来るでしょう

常に自分の中で 「歯科医の未来形」 を追い求める

実践できていることの上に理想と考えている形を、これからの夢として・・・自分にとっての歯科医の未来形を探る環境作り。

Hospital ⇒ 病院 (Hospitality) 手厚いおもてなしが基本

これからの歯科臨床研修施設は若い歯科医師がこれから取り組むべき歯科医療の基本的な精神を育む環境作りがより求められるであろう。

まとめ、

現在の臨床研修医は歯科医師国家試験を合格し、それまでの長期間にわたる高度な専門知識と技術の習得により、歯科医師としての基本的な要件は十分に満たしていると思われます。

ただし、大半の臨床研修医は自身の歯科の職業としての将来に大きな不安を抱えながら、研修施設である医療現場に出向いてくる傾向が強く感じ取れます。

歯科医師になるまでの充足した家庭環境からの甘えや、苦学した教育環境のみならず、将来のこの仕事に対する不安要素を自然と取り込んでしまっていると思えます。

いつの時代にも、どんな職業にも将来的な不安と時代の流れが存在することを認識させ、その不安の払拭と、これからの歯科の新しい時代の流れを作るのは、研修医である自分自身であることを6年間の大学教育も含めて一連の臨床教育として必要と思われれます。

今後は、当施設においても研修医における精神面の不安要素を少しでも緩和でき、その方の将来的な職業・仕事に対する価値観のモチベーションの上昇につなげられる研修施設となれればと考えています。